水城保育園 2025年度 教育及び保育の内容に関する全体的な計画

2025年4月

事業の目的	「善を志向した人づくり」 保育は人づくりであり、人づくりが街づくりとなる。「善の希求」の法人理念に基づく、善を志向した人材を生み出すことを事業の目的とする。 「元気でやさしい水城の子」として善を体現した児童たちは、太宰府の歴史に編み込まれ、やがて次の歴史と新しい命の創り手となる。命のバトンが繋がる中で、善が浸透していく。	保育理念（事業運営方針）	「善く生きる」 法人理念「善の希求」に基づき、児童・保護者・職員が「善く生きる」ことを目指す。 他方で、善とは何かの定義は難しく、時に独りよがりな考えに陥ることもある。それでもなお、常に問い、学び、求め続けることそのものが善の一つのあり方であり、結果ではなくプロセスを重視する保育のあり方と性質を同じくする。
教育・保育方針	「愛が満ちて、命を尊び、知を喜ぶ」 惜しみなく愛を与えられた児童は、自他の命を慈しむようになり、命を謳歌する中で知を享受する。 保育者は児童の力を信じ環境を通じた教育を行う。 保育者は人的環境として、言葉ではなく自分の姿を児童に示す。	園の教育・保育目標	長期目標「一人ひとりが自分らしく輝く」 中期目標「遊びきる」 展開が読めている遊びは暇つぶしに過ぎず、遊びきることができない。完成形の見えない遊びを子どもたち自身が開拓・展開する機会を保障することで、学びが深まっていく。

子どもの教育及び保育目標（学年の重点）（保育目標・保育の内容ともに年間指導計画の基礎事項・年間指導計画・行事のねらいは別紙）				
乳児	・新しい世界に歓迎され、愛を知る	3歳児	・ゆるやかなクラス意識の始まり ・文字・数への興味と生活での使用
1歳児	・探索により世界の広さと楽しさを知る ・失敗の経験が保障され、試行錯誤を積み重ねる	4歳児	・クラスへの主体的参画 ・STEAMマインドの高まりと長期PJの開始
2歳児	・想像の世界の扉を開き、現実の世界との往還を楽しむ ・自己主張が尊重された先に自己抑制を知る	5歳児	・主体的協働的な深い学びの深化 ・自分たちで作る自分たちのクラス

保育時間など	1号認定／教育標準時間 9:00〜13:00 （預り保育7:00〜9:00および13:00〜18:00） 2・3号認定／保育標準時間 7:00〜18:00 保育短時間 9:00〜17:00 （預かり保育 7:00〜9:00および17:00〜18:00） 延長保育時間 18:00〜19:00
主な園行事（日常の節目としての行事設定）及び園事業	4〜6月 入園式／お花まつり／親子遠足／健康診断 7〜9月 七夕まつり／子どもクッキング／夕涼み会 10〜12月 大運動会／芋掘り／保育参観／秋の遠足／焼き芋大会／餅つき大会／クリスマス会／終業式 1〜3月 始業式／凧揚げ大会／豆まき／ひなまつり発表会／卒園式・修了式

■教育・保育要領上の教育及び保育の基本及び目標	■教育及び保育において育みたい資質・能力	■幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	■小学校との接続	■家庭との連携	■特に配慮すべき事項／発達の連続性と養護
子どもたちは自ら成長する能力を持ちつつも、自身の表現や社会への適応において大人の支援を必要とする。そこで大人は子どもたちの経験内容を5領域において分析し、次のねらいや環境設定に繋げていく。	5領域で分析された子どもの経験から次のねらいにつなげる際に、方向性を与えるのが3つの資質・能力である。小学校以降の教育と関連づけられた幼児期の3柱の資質能力は、幼児期が生涯を通じて獲得される資質・能力の土台となることを根拠づけるものであることを意識する必要がある。	指針で示された10の姿は、児童の姿を他者に伝えるための共通フォーマットとして用いる。園での豊かな経験の中で自ずと満たされていくと考えられるが、10の姿のどこかに課題が見つかった場合は、自園の保育を振り返る手段にもなり得る。	年長児の後半の6ヶ月を、小学校で行われる教科教育への準備段階と捉え、アプローチカリキュラムを設定している。 まなぶ力、生活する力、かかわる力の3要素についてねらいを立てる。	家庭と園とは子どもの育ちのパートナーとして、より良い育ちのため協働する。 [養護]心身の健康状況を日々細かく共有する[教育]指導計画と実際の子どもの育ちの両面で協働的なPDCAを行い、子どもの学びを増進する。	①発達を見通すことで、発達を先取りする教育から脱却し、年齢に合った時間を確保する②有限の時間の中で質の向上を目指す意図から「カリキュラム時計」と称した計画で連続性の意識付けを図る。 午前は「個」の発達の時間であり、午後は「個と集団」の発達の時間とする。22時以降は小学校への接続カリキュラムとなる。

教育及び保育の基本と目標	（まなぶ力）科学・芸術への情熱を灯す文化的環境（生活する力）ていねいに生きる生活環境（かかわる力）助け合いながら最後までやりぬく協働的環境 上記3つの力を環境構築によって支援する

■養護（保育教諭が行う事項）	年齢	(0:00-4:00) 乳児	(4:00-8:00) 1歳児（満1歳以上）	(8:00-12:00) 2歳児（満3歳含む）	(12:00-16:00) 3歳児	(16:00-20:00) 4歳児	(20:00-24:00) 5歳児	■小学校以上との接続に鑑みて
	生命の保持	安全・清潔な環境の中で個人差に応じた生理的欲求の充実を図る	運動量の増加に伴う清潔・安全・活動的な環境を保障し、夏冬の温度変化に徐々に対応できるようにする	1日のリズムが意識され、自分のことが自分でできるための清潔・安全・活動的な環境を保障する	豊富な運動量の確保と寒暖差に負けないからだづくり	リスクに対応できる即時反応と経験	自分の健康管理に関心を持ち、園の内外の危険に対する意識を醸成する	幼児教育における3柱の資質能力は、小学校以降の生涯に渡る教育の基礎と位置づけられる。本園の保育目標「知の喜び」とは、小学校以降も共通する「学びに向かう力、人間性等」を基盤に、知識・技能、思考力・判断力・表現力等を、人生を彩り「善く生きる」ための伴とすることを意味する。
	情緒の安定	特定の大人との愛着を形成することで、安心感に包まれ、くつろいだ環境を作る	複数の大人との愛着が形成され、応答的なふれあいにより、自己表現が受容・共感される	自我の育ちや自己主張の高まりで生まれる葛藤が受容・共感され、時に代弁することで整理がつくよう援助する	一人ひとりとの信頼関係の上に成り立つ集団意識の芽生え	生活の見通しに基づく意欲的な参画 さまざまな経験を通して自他の葛藤と緩和	個人としても集団としても、善く生きることに価値を置く	

◎ねらい及び内容並びに配慮事項

（この教育は教育課程に係る1日4時間、年39週を下回らない学校教育のこと）

◎教育及び保育（園児が環境に関わって経験する事項）

※乳児は三つの視点、幼児は5つの領域で区分されている(基本的事項を十分に参照)。

※要領上は乳児と満1歳に区分されているので、満1歳を迎えた場合は1歳児の5領域を参照。
※2歳児は、満3歳の誕生日を迎える前は保育、それ以降は教育及び保育に位置付けられる。

（乳児）三つの視点	乳児 保育
健やかに伸び伸びと育つ	・一人ひとりの心身の基本的欲求の充足 ・微細・粗大運動および5感の発達
身近な人と気持ちが通じ合う	・人として尊重された援助行為 ・特定の大人との愛着形成 ・わらべうたや絵本を通じた時間の共有
身近なものと関わり感性が育つ	・一人ひとりの発達に合った遊び環境と保育教諭の援助 ・豊かな環境の中で回りのものへの興味とふれあい ・環境の応答性（音が出る、伸びる、落ちる、へこむ、回る等）の充実

（満1−2歳児）5領域	1歳児（満1歳以上）保育	2歳児（満3歳未満）保育	（満3−5歳児）5領域	3歳児（満3歳以上）教育・保育	4歳児 教育・保育	5歳児 教育・保育
健康	・運動量の充足 ・清潔の心地よさ	・全身を使った運動 ・1日の見通しに基づく主体的な生活の始まり ・衣食排泄への関心と適量の援助による自立の促し（箸やトレパンを含）	健康	・四季の戸外遊びによる寒暖への対応 ・高低差・天地逆転のある遊びや器械運動への挑戦の充実 ・主体的な食の行動 ・身辺自立と公衆衛生意識の獲得	・食材への関心、食と健康の連関の意識 ・より高度な遊びへの挑戦 ・器械運動の挑戦プログラム	・GL−エコシステムの学び ・挑戦を通じた危機管理能力の向上
人間関係	・個人としての意志が尊重される ・探索のための安全基地 ・楽しい経験を伴う他児への気付き・世界の広がり	・過度に集団行動を求められず、個としての応答的関係 ・自己発揮と他児とのかかわりの援助	人間関係	・ゆるやかなクラス意識の始まり ・集団の中での豊かな個別的かかわり ・見通しをもった生活が可能にする主体的な場面展開	・サークルタイム等によるクラス自治のはじまり ・生活や遊びでのルールや協働の意識 ・善の価値観の広がり	・最上級生として年下への関わり ・保育教諭の援助を受けながらのクラス自治 ・個が尊重されながらクラスとしての団結
環境	・元気でありながら穏やかな時間 ・探索行動での自然のふれあい	・見立て遊びの充実 ・個人の意志に配慮した主体的な遊び ・五感を使った自然のふれあい	環境	・身近なものを科学する心の芽生え [数]生活における集合・比較1	・科学する心が育つPJ−1 一世界の不思議を探求する ・園内公共物の整備 [数]生活の中での5までの比較、数概念、順序数、5までの加減算	・科学する心が育つPJ−2 一自然と社会のシステム [数]生活の中での3つの比較、10までの数概念、順序数、加減算
言葉	・元気でありながら穏やかな時間 ・探索行動での自然のふれあい	・想像世界の充実 ・初歩的言語・論理世界（300語・AだからB程度）の初歩的習得環境	言葉	・グループでの対話のはじまり [読]文字環境への関心・絵本のひろい読み・かるた[書]持ち方・筆圧	・対話的な遊びの深まり [読]短文を読む[書]生活の道具としての書字	・対話による自治とルールの記録[読]物語を読む楽しさ[書]文で伝える楽しみ
表現	・身体表現の重視 ・豊富な素材のふれあい ・リズムあそび	・生活イメージの想像と表現 ・うたとダンスによるリズムとメロディー	表現	・身近な道具を用いて自分のイメージを表現 ・伝承遊び ・協働的芸術経験（劇、リズム、音階）1	・創造活動への没頭と協働1 一物語とごっこ遊びの往還 ・協働的芸術経験（劇、リズム、音階）2	・創造活動への没頭と協働2 ーストーリーの創造 ・協働的芸術経験（劇、リズム、音階）3

■幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目	■教育・保育において育みたい資質・能力の3本の柱
ア 健康な心と体 イ 自立心 ウ 協同性	ア 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする **「知識及び技能の基礎」**
オ 社会生活との関わり カ 思考力の芽生え	イ 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする **「思考力、判断力、表現力等の基礎」**
キ 自然との関わり・生命尊重 ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ 言葉による伝え合い コ 豊かな感性と表現	ウ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする **「学びに向かう力、人間性等」**

★健康支援／状態把握・増進・疾病対応	★食育の推進	★環境、衛生・安全管理	★災害への備え	◆子育ての支援	●カリキュラム・マネジメントと園児の理解に基づいた評価
・健康及び発育発達状態の定期的、継続的な把握 ・年2回の嘱託医による健康診断（内科・歯科・検尿）、ぎょう虫検査 ・登園時及び保育中の状態観察、また異常が認められたときの適切な対応 ・年間保健指導計画（年齢別参照） ・年1回職員健康診断及び毎月の検便（調理員・調乳担当者） ・学校医園内点検	食を主体性の最も顕著な表出の1つと捉える ・ランチルームの活用：教室での活動において場面転換により中断されることなく、自らの意志で食へと向かう意識の醸成 ・栄養士的保育活動：栄養士も児童と積極的に関わり、嗜好や栄養を考えたメニュー設定、恒常的な食育を実践 ・行事食：食で四季を感じ、四季への好意の醸成 ・グリーンライフ：農業高校と年間を通じて交流し、種まきから食事まで一体的な営みとして命のサイクルの意識醸成	・わらべうたや伝承遊びを用いた保育空間 ・職員・園児の協働による施設内外の設備、用具等の清掃及び消毒等、安全管理及び自主点検により、清潔を保つと同時にていねいな生活の教育 ・子ども及び職員の清潔保持 ・感染症の保護者との情報共有 ・感染症予防のための消毒プロトコル作成により、インフルエンザ・新型コロナウイルス・ノロウイルス他への対応 ・年1回外部業者による点検及び園庭整備 ・お散歩マップや人数点呼など園外保育の安全管理	・避難訓練（火災、地震、水害、不審者対応）の実施（毎月） 内消防署との連携による総合訓練（年1回） 消火訓練の実施 ※年2回外部業者による消防設備点検 ・被災時における非常電源・水の確保システム 年1回炊き出しによる機材点検および訓練 ・DWAT参加による研修・共助ネットワーク構築	・受容と共感を基本姿勢とする保護者との対話により、子育てをエンパワメントしていく ・子育てに関する情報を提供し、地域の子育て力向上に努め、また子育てしやすい街を目指す	子どもの姿と保育教諭の願いを保育の両輪と捉える基本姿勢を取る。これに基づき、5領域による子どもの姿の分析と3資質能力による保育教諭の願いとの往還により、子どもの評価と次のねらいにつなげる。 カリキュラムは発達ごとの園児にふさわしい経験内容であり、この内容を分析し評価する。

情報公開等	ホームページの情報公開（財務・法務・園務） 公開保育や個別園見学による公開 論文・書籍による自園の保育手法の公開	特色ある教育と保育	・学問と実践の往還の重視 ・学習指導要領に基づく陶冶ではなく環境による支援の枠組
地域の実態に対応した保育事業と行事への参加	町内会、商工会議所、青年会議所およびシニアクラブとの連携 他園、小学校、養護学校との連携	研修計画	[三役]月1度の三役研修（私立保育園連盟月刊誌の編集を通じた最新の保育理解）、大学院研究室所属（園長） [職員]各職員が一度ずつ行う公開保育と全職員による振り返り、実習と研修との一体的学び（Learning in Teaching） [その他]県内外での外部研修、講師を招いての園内研修、先進的取り組みの園訪問研修
自己評価等	[外部評価]公開保育のアンケート調査による評価 [内部評価]月1度の保育の振り返り、年1度の総合的振り返り		